

社協たより

第168号

2015.12.1

点字・墨字版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145

TEL 0949(23)2551 FAX 0949(23)2552

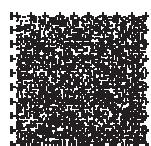
e-mail: nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp HP: http://www.nogatashakyo.org/



もくじ

- 買い物支援～地域と施設の連携～ 2
- 地域の輪（ゆいの会）
- 情報の広場（第41回直方ボラのつどい・不登校ひきこもりの学習会）
- 図書室（満月の夜、母を施設に置いて） 3
- お知らせ（もちつき会開催・運転士募集・特設人権相談所開設・歳末見舞品について）
- ご寄付（エンドラスト） 4

（藤田）



そんな一人ひとりの優しさや思いやりの心が、障害者週間の目的である、障害者への关心と理解を深め、社会参加を促進するため、何よりも大切な根の部分ではないかと思います。

車いす障害者の私が外出した時には、本当にありがたいことに扉の開閉や、エレベーターで挟まらないように「開ボタンを押していただきたい」といの心配りをしていただいてます。

多くの方は、障害者を時折大型商業施設などで見かけるぐらいかもしれません。が、直方市内に何人の障害者（障害者手帳1～5級保持者）が生活しているかというと約4千人になります。

毎年の12月3日～12月9日までの1週間が「障害者週間」です。

kantera

力
カンテラ



障 害 者 週 間

この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

買い物支援

施設の地域貢献と 町内会の地域力



スーパーの出入り口で、誰が戻ってきたかをチェックします。

会下地区は非常に坂が多く、また急勾配の坂も目立ちます。そんな中、地区内では高齢者人口が増えてきました。そして、スーパーまで長時間かけて歩いている人、バス停まで行くだけで何10分もかかる人、重い荷物をリュックに背負いシルバーカー

に乗車する人は、運転手と地域のボランティアの方となっています。

○なぜ支援が必要なの?

○会下町内会へインタビュー!!

小田原会長と町内会の皆さんにお話を伺いました。

を押して買い物に行く人など、日常的な買い物が難しい人々が増えましたのです。



各自カートを持って買い物に向かいます。

うと、協力し合っていきます。
これからもこの活動を長く続け、
地域に定着させたいと思います。

地元の役に立ちたいと
思っていた長光園と、
買い物に困っている人
たちをなんとかしたい
と感じていた会下町内会の願いが一
致して実現したようです。



○長光園へインタビュー!!

田中施設長にお話を伺いました。

長光園は今年で設立37年になります。組織の運営理念で地域社会への貢献をうたつてきましたが、具体的な行動ができていませんでした。そこで地域の為に何かできないかと考え、災害時の緊急避難所として施設を設定する、施設のホールを地域に開放するなどの活動から、地域との協力関係を進めてきました。そして

町内会に加入したところ、地域の人々が買い物で困っていると分かり、今は高齢者宅への訪問活動を行っていますが、その活動の中で買い物に行くのが難しい人たちが居ること

が分かつてきました。何とかしなくてはと考えていたところ、長光園の協力もあり今の買い物支援を始めることができたのです。

何回か行っているうちに、利用者が降りるときに手を差し伸べたり、荷物を持つたりしている姿を見るようになりました。ボランティアの方も、「地域に何か貢献したい」「ちょっとでも手伝えれば」と言つてくださいり、自分たちでできることはやつていこ

○現場レポート

会下町内会員と 長光園のバスによる 買い物に同行して

力して、買い物弱者と言われる人に



長光園のバスは買い物が終わるまで駐車場で待機してください。

これからも地域との連携を深めたい、みんなをみんなで支える社会を目指していきます。

覚えている方も沢山いらっしゃるのではないかでしょうか。高齢社会になり、買い物だけではなく、市民の一人が買いたい物で困っている人や必要としてくれる人がいるので、現在祝日でもバスを出しており、今年最後の水曜日である12月30日も休まず運行する予定です。

これまで地域との連携を深めてきたが、高齢社会になると、買い物だけではなく、市民の一人ひとりが自分のできることで社会に貢献していく時代が来たように思います。

(石黒)



この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。



地域の輪

地域に根ざした独自の
福祉活動をご紹介します。

模索を続けて

精神保健福祉ボランティアゆいの会

「おはようございます」毎
月第1月曜日に例会が始ま
ります。会議の中では、活
動報告・反省・予定などを
話し合っています。

精神障害者を対象とした
ボランティア団体ゆいの会
が結成され、今年で3年
目になります。活動内容は、
年1～2回の講演会・学習
会、なօみの会や他団体との
交流・支援活動、社会福祉
協議会の行事や各イベント
のボランティア参加などが
あります。

「まだまだ模索しながら
やっています」と千々岩会長
は言われます。何年経つて
も、行動と反省と模索の繰
り返しだと思います。「正解」
などないボランティア活動、
会員の皆さんは当事者から
笑顔を貰い、人と人のやりと
りが築けることを嬉しく思
われているのかもしれません
わざわざお越し下さい。



会をゆつたりと長く続けて
ください。頑張れ！ゆいの会。
(田中)

情報の広場

第41回直方 ボランティアのつどい

福祉制度の矛盾や生きづ
らさを当事者目線で学習す
ることで、私たち（ボラン
ティア）にできることは何か
について学習します。

日時

12月6日(日)
13時30分～15時

会場

直方市総合福祉センター
(直方市大字山部616-1)

講師

中山善人さん
(ごろりんハウス代表)

参加対象

ボランティア活動や内容
に関心のある方

主催

直方市ボランティア連絡協議会
直方市社会福祉協議会

申込方法

TEL・FAX・メールなど。
〔連絡先〕

直方市社会福祉協議会

不登校ひきこもりセミナー

「不登校・ひきこもり」の
理解と支援

●テーマ
●日時
●会場
●講師
●参加対象
●主催

12月26日(土)
13時30分～15時30分

直方市総合福祉センター
(直方市大字山部616-1)

長阿彌幹生さん
(教育文化研究所代表)

●参加対象
●主催
●申込方法

不登校やひきこもりの方
のご家族、支援者、関心の
ある方

学校に行かない
子どもを支える会

直方市社会福祉協議会

TEL・FAX・メール
などにてお申し込みくだ
さい。

〔連絡先〕
直方市社会福祉協議会



「満月の夜、

母を施設に置いて」

著者 藤川 幸之助
発行所 中央法規
福岡県立図書館所蔵
詩集の中の一編をご紹介します。

扉(とびら)

母を老人ホームにいた
認知症の老人たちの中で
静かに座つて私を見つめる母が
涙の向こう側にぼんやり見えた
私が帰ろううとすると

何も分かるはずもない母が
私の手をぎゅっとつかんだ
そしてどこまでもどこまでも
私の後を付いてきた
私がホームから帰ってしまうと
私が出ていった重い扉の前に
母はびつたりとくつづいて
ずっとその扉をみつめていると
聞いた

それでも
母を老人ホームに入れたまま
私は帰る
母にとつては重い重い扉を
私はひよいと
開けて
また今日も帰る
（広田）



